第90回 ISO/TMB
（技術管理評議会）
結果報告

経済産業省　イノベーション・環境局

国際標準化交渉官

猿橋　淳子

令和6年7月11日

作成課	国際標準課
性質/作成日付	機密性１、令和6年7月11日
保存期間	１年
備考	未定稿

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（１）

●任務

- ISO規格作成に関する管理事務的事項
  - ✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC専門業務指針の改訂等
- ISO規格作成に関する戦略的事項
  - ✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（２）

● メンバー（出席者）

● TMB議長: Mr Javier GARCIA Diaz （西）

● TMBメンバー(15名)：※赤字は今回の会合より変更

Mr. Steven Cornish (米), Ms. Amanda Richardson (英),
Ms. Petra Scharf (独), **Ms. Atsuko Saruhashi (日)**, Mr. Franck Lebeugle (仏),
Ms. Yubing Li (中) , Mr. Young Jun Moon (韓) ,Mr. Chandan Bahl (印),
Ms. Chantal Guay (加), Mr. Jorge Cazajiera (伯), Ms. Karen Batt (豪),
Mr. Zacharia Lukorito (ケニア), Ms. Maria Skou (デンマーク) ,
Mr. Marcel Knecht (スイス) , Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー)

● ISO中央事務局：
Mr. Marco Rossi (部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長ほか

● オブザーバー：

Mr. Vimal Mahendru (IEC/SMB議長), Mr. Gilles Thonet （IEC/SMB事務局長）

報告・決議事項

【 決議 56/2024 】 TMB 2025年業務計画案の承認

Approval of the draft TMB 2025 Work Programme

＜決議要約＞

- TMB 2025年作業計画案を承認する。

＜背　景＞

- **TMB作業計画： TMB 戦略概要によって、今後 4 年、TMB によって管理されるプロジェクト。**

新たなプロジェクト

- 多様性と包摂性(ステークホルダーエンゲージメント)
- TMB TF ESG　技術の一貫性

完了したプロジェクト

- 小数点記号

- **TMB作業計画草案の承認に向けて**

1. TMB事務局は、6月のTMB 会議後に第1案を上層委員会に提出。
2. ISO/CS 幹部は、組織全体での一貫性と調整を確保するために、全作業計画案を確認（７月）。
3. 作業計画案は承認を得るために議長に提出。
4. 会長委員会および理事会により 2024年 9 月で見直す。

＜審議内容＞　議題3.1

OSD: Online Standards Development

- OSDなどは作業計画（WP）には記載されず、TMBがリードするプロジェクトのみを記載。
- WPは優先順位を付けるべき。新しく足すばかりでは対応できない。

【 決議 57/2024 】 Guide 82:2019：規格の持続可能性に対処するための指針の改訂

Revision of Guide 82:2019 Guidelines for addressing sustainability in standards

＜決議要約＞

- Guide 82の改訂を進めることを承認し、幹事国をBSIに割り当て、
- Guide 64:2008（製品規格で環境問題を取り扱うためのガイド ）は内容が古いため廃止し、
- ISO/TC 207に、Guide 64の内容を他のISO、IECのガイド又は規格類に再割り当てする方法に関する追加の推奨事項を提供するよう要請。

＜背　景＞

Guide 82は、ISO規格等の新規開発、改訂、更新に関する持続可能性をどう考慮するかという点を規格開発者向けに提供するガイダンスで、ISO規格の開発者がテーマごとに持続可能性に対処する際のアプローチに関する方法論の概要が記載されている。

Guide 64については、TMB通信投票で廃止に賛成14、決議延期 1 のため、決議延期となっていた。

＜審議内容＞　議題 4.1

- Guide 82は見直す時期である（化学物質などが問題になってきている）
- TC/SCに環境やSDGsを検討しろと言っているのに、Guideがアップデートされていなくてよいのか。
- どうGuideを普及するか。(例えば、NSBが広報、地域会合で普及、TMBからの広報文書の発行等）

【 決議 58/2024 】　規格類最適化（OD）プロジェクト

Optimized Deliverables (OD) project

＜決議要約＞

- TF（タスクフォース）の報告にある推奨事項案は，ステークホルダーのために、ISOとIECの両者が共通のアプローチを行うという追加の作業が行われるという条件を、強調し，
- IEC/SMB は，（TFの報告等を理解しきれていないため）、最終決定に向けて，推奨事項を分析し，追加のフィードバック及び/又は推奨事項を補足し、TFへ提供するために更に時間が必要、
- TMB と SMB の両方による承認のための推奨事項を合同で作成するために，SMB に対してさらなる協力を促進。

＜背　景＞

2022 年に規格類最適化 (OD) TF は活動を開始。このプロジェクトは、ISO規格類とその規格開発プロセスを現状に合わせ、見直しを行うことが目的。規格類とプロセスの多くはIECと共通であるため、SMBにも進捗が共有され、協調した活動が必要であることが認識されている。

＜審議内容＞　議題 4.2 ＜本議題は、SMB/TMB合同会合において議論された＞

- 前向きに対応できるように検討してほしい。（TMBのみの際にも強調されている）
- ユーザーは規格がISであるか、TSとかであるかは気にしていない。いい規格だから使っている。プロセスのみならず、テンプレートも見直しも検討してもよいと思う。
- JTFの名称は、最適な規格類ではなく、「将来の規格（将来のプロセス）の議論」にしてほしい。

【 決議 59/2024 】　社会的責任に関連するリスク低減に関するTMBタスクフォース-最終報告書と推奨事項

TMB Task Force on the mitigation of risks related to Social responsibility – Final report and recommendations

＜決議要約＞

● 「社会的責任に関連する」規格を開発する際のリスク低減に関するTMBタスクフォースの最終報告書と推奨事項を受け入れ、推奨事項を関係グループに共有するよう要求。

＜背　景＞

社会的責任（SR）の規格（ISO 26000）は発行後10年以上経過しているものの、様々なリスクがあるため、改訂の希望があるにも関わらず、改訂が行われていない。

2021年に行われたSRに関するTFからは、数年後に再度リスク低減に関して議論することが提案され、また最近のSAG ESGの活動など、近い活動が増えてきている。

2023年9月TMB会合で、SRの規格開発によるリスクを特定し、TMBに対してこれらのリスクを低減する方法を検討するTFの設置がAFNORから提案され、今回９つの勧告を記載した最終報告書が提出された。

＜審議内容＞　議題 5.1.1

- 本報告書は公開されるのか。→　内部のみ。同様の規格が提案されたときに検討すべき事項として使う。
- 勧告1～9は、順番を考えて実行されるべき。
- 社会性のある規格を作るなというものか。　→　そういうつもりはない。
- 次のステップはなにか。　→　まずは関係者（CSC/SP/TMB/CASCO）に情報共有される。

【 決議 60/2024 】 ジェンダー対応規格に関する合同戦略諮問グループ（JSAG） の報告書

Report of the Joint Strategic Advisory Group (JSAG) on Gender Responsive Standards（GRS）

＜決議要約＞

- JSAGが、2024年1月の報告書に記載した推奨事項も，推奨事項 8 （新しくジェンダー対応規格（GRS）グループの設立を推奨したが、JSAG の任務の延長に置き換えられた） を除き、承認されたことを明確にし，
- ISO/IEC JSAG GRS の業務を 2026年2月まで延長し、Karin Lindmark （SIS） が 2026年2月まで ISO 共同コンビーナを務めることに同意。

＜背　景＞

2024年3月にSMBとTMBそれぞれで議論された以下の修正を加え、JSAGの報告書を全面的に承認。

・ジェンダーアセスメント様式の簡素化。

・JSAGでの業務対応を2026年2月まで延長し、ジェンダー対応規格グループの設立勧告の不受理。

＜審議内容＞ 議題 5.3.1

- SMBの決議内容が、TMBの理解としている決議と同じかどうかが不明だったための議題。
- 内容に関して、やることは同一であることは理解したが、必要な加筆はした上で承認すべき。
- NSB（国家規格団体）は、GRSに関して必要な研修をすべき。

【 決議 61/2024 】包摂的用語に関する ISO-IEC JAG

ISO-IEC JAG on Inclusive Terminology

＜決議要約＞

- JAG ガイダンス及び非包摂的用語集を テクニカルコミュニティ（TC/SC等）に向け発行及び配付することを承認し，
- 包摂的用語に関する ISO-IEC JAG の新しい任務と共に期間を 1 年間延長することに同意し，
- JAG に，2025 年 6 月の TMB/SMB 合同会議に最終報告書を提出するよう求め，IEC/SMB に同意を促す。

＜背　景＞

2022年6月にIECと包摂用語に関する共同諮問グループ（JAG）を設立した。

JAGは任務を終了し、現在、TMBとSMBの承認を得るための報告書と推奨事項が提出された。

＜審議内容＞　議題 5.3.2 ＜本議題は、SMB/TMB合同会合において議論された＞

- Disabled（障害）に関しては重要なので対応してほしい。
- 翻訳はここの業務ではないが、準備するときには非英語言語のことも考えて作業してほしい。
- 利用すべき用語のソースを記載（UNとか）してほしい。　→　ソースの記載は事務局で対応する。
- いつ改訂するという情報はどこでいれるか？　→　Guide本体に入れてはどうか？

【 決議 62/2024 】会議マネジメントに関するJTFニューノーマルガイダンス文書

JTF New Normal Guidance Document on Meeting Management

＜決議要約＞

- 書面による総会参加を認める決定を、 TMBとSMBが行ったことに留意し,
- 2024年10月までにISOとIEC両事務局によるガイダンス文書改訂を承認するようSMBにも要求,
- ISO/CSに対し，改訂されたガイダンス文書に合わせて会議のITツール（ISO Meetings Application）を更新するよう求め，JTF ニューノーマルを解散することに SMB とともに同意。

＜背　景＞

ニューノーマル（NN）ガイダンス文書は、2021年9月からTC/SC等が利用できるようになっており、ハイブリッド会議、バーチャル参加も可能な対面会議の両方への参考文書。

＜審議内容＞　議題 5.3.3

- TMBもNNや持続可能性に向けたなにかをすべき。環境に関して、TC/SCはなにかガイダンスが必要。
- ステークホルダーが重要としている文章。そのため、TFではなく事務局でよいので、コメント募集をしてほしい。 → Surveyを2023に行い、その結果を踏まえたものであるが、コメント募集はする。但し、現状のガイダンスのスコープを越えないものとする。
- ガイダンスの改訂に関して、対面の際にもハイブリッドを入れるような規定が必須。強制にしてほしい。 → ハイブリッド会議は、ホストに対して大きな負荷。

【 決議 63/2024 】HAS コンサルタント プロセスに関する ISO/CEN JTF の委任事項の原案

Draft Terms of Reference for an ISO/CEN JTF on the HAS consultant process

＜決議要約＞

- ISO/TMB と CEN 技術評議会（CEN/BT）の間で，HASコンサルタントプロセスのあり方を検討する合同タスクフォース（JTF）の設置及び任務と委任事項に同意し，
- JTF が任務を開始する前に，ISO/CS と CCMC が HAS プロセスに関する適切なデータ収集（9 月まで） を行うよう求め，CEN/BT に，この JTF の設置を検討し，支持するよう促す。

＜背　景＞

・2019年９月（第76回）TMBで、ウィーン協定に関連した問題点（HASコンサルタントとその手続きの遅延）が提起され、議論が開始。HASコンサルタントからのコメントの提出が大変遅い、またその内容に関して、ISO/IEC/CEN/CENELEC/ECは、意見交換を行い、改善策の議論及びECへの改善を求めた。

・2022年にECは、それまでのHASコンサルタントとの契約を改め、対応させた（分野は特に機械）。その後、大幅に時間は削減。

＜審議内容＞　議題 9.1 ＜本議題は、事前会合において議論された＞

- 合同でウィーン協定を議論できることが重要。IEC/CENELEC（フランクフルト協定）は、ウィーン協定とも異なっているが、また新しいプロセスを開発することは反対。
- HASコンサルタントの返事がなければ、ウィーン協定の分離をすればよい。（分離は求めていない）
- JTFの、メンバーは、Co-convenorをANSIとしてKEBS、SA、JISCが参加。

【 決議 64/2024 】リエゾン承認プロセス 及びISO/TC 197/SC 1/ WG 1 への GH2 のカテゴリー C リエゾン申請

Liaison approval process and GH2 category C-liaison application to ISO/TC 197/SC 1/WG 1

＜決議要約＞

- カテゴリー C リエゾンとしての GH2 の申請に関する資料のレビューを終え，ISO システムと Strategy 2030の原則を考慮し，
- 適任性の基準を満たしているため ISO/TC 197/SC 1/WG 1 への GH2 カテゴリー C リエゾン申請を承認し，「倫理及び行動の規範」がすべての参加者に適用されることの注意を促す。

＜背　景＞

・2023年9月、2024年2月、GH2からC リエゾンの申請をTC 197/SC 1が受領し投票を実施。否決。

・リエゾンとして幅広い意見を取り入れることが重要であるが、特定の考えのみ推進する組織により公平な判断が妨げられることを防ぎたいとの委員会の意思が示されていた。

＜審議内容＞　議題 6.1.1

- SCが決めたものをなぜ否定するか。今までのTMBはTCの決議を尊重。これに反論する理由は？
  → SCの判断は尊重しつつ、反対のコメントが技術的なものではない。
- リエゾンに対して懸念があるのは事実。リエゾンの状況をよくする議論が必要。
- TC/SC等(リーダーシップ、P-members)に対して、engagingを理解させるような決議が必要。
- SCで議論したものであるため、TCがまず調整すべきではないか。

【 決議 65/2024 】スマート シティ向け IT に関する分科委員会 （SC） の設置に関する ISO/IEC JTC 1 の提案

ISO/IEC JTC 1 proposal for the establishment of a subcommittee (SC) on IT for smart cities

＜決議要約＞

- SMBとTMBで合同ahGを設置し、IECとISOの本分野に対して議論をする。メンバー構成は

TMB：Co-convenor: KATS、メンバー　SCC、JISC、SN、AFNOR

SMB：　Co-convenor: FR、メンバー　CN、MX、UK、US

- SMB/TMB 合同ahG は SMB/TMB 2024年10月までに、報告書を提出。

＜背　景＞

中国からのSC設置提案に、2023年9月SMB投票では賛成多数、TMB投票では決議延期となった。そのため、TMB会合においては、議論はあったものの、SMBが承認していることを理由に、JTC 1/SC 44の設置を承認。その後、10月のSMB会合において、賛成した国から疑義が呈され、承認が延期。そのため、SMBから再考の指示がJTC 1にあり、TMBもそれに従った。

＜審議内容＞　議題 6.1.2 ＜本議題は、SMB/TMB合同会合において議論された＞

- TMB/SMBはCoherenceをきちんととって対応しないといけない。既存のイニシアティブがたくさんあり、ITが関連したSmart Citiesはどこに行くのか？既存の委員会との関係を検討すべき。
- WG11のままではなぜだめか？もしくはJTC 4にしてもいいのではないか。
- TMBとSMBが合同で決議する方法をもう少し向上させるべき。コンセンサスのないものは決議もない。

【 決議 66/2024 】クリエイティブデジタルデザインに関するTS/P提案のレビュー

Review of TS/P proposal on Creative Digital Design

＜決議要約＞

- クリエイティブ デジタル デザインに関する TS/P のレビューが ISO/IEC 専門業務用指針箇条1.5.5 に従って完了したことを確認し，
- IT の側面と重複していないことを明確にするために SAC に提案と業務範囲を改訂するよう要請し，改正された提案をすべての会員団体に回付して投票することを承認。

＜背　景＞

当該新規TC設置提案については、SPCG（IEC/ISO/ITU-T標準化調整プログラム)やIECからも広くフィードバックを受け付けた。特に、JTC 1/SC 24からは、本提案はSC 24に割り当てることが最適と示唆するコメントがあった。

一方で、提案者であるSACは、当該TCはe-Game、デジタルアート、デジタルファッションデザインなど、デジタル世界の構成要素のクリエイティブデザインに関連した管理、組織、運用、スキル獲得の分野における要件とガイダンスを含む”プロトコル”の標準化にフォーカスし、技術中立を志向していると主張。

＜審議内容＞　議題 6.3.1 ＜本議題は、事前会合において議論された＞

- 市場としては大きなものがあるのはわかるが、まさに創造性を無くしたら、市場は広がらないのではないか。よって、Creativeを外すなどが必要なのではないか。
- スコープの洗練が必要。ITが入らないのはわかったが、MB投票では、ステークホルダーはまだ混乱する。
- 改正案を再度、関係のあるTC/SC等に確認させるべき。

【決議 67/2024】デジタル マーケティングに関する TS/P 提案のレビュー

Review of TS/P proposal on Digital Marketing

＜決議要約＞

- 本提案にどの程度の関与を希望するかを決定するために全ISO会員への投票を開始するよう要求。
- ISO 会員に対しては、本提案と ISO/TC 321 の活動との関係について、提案のレビュー中に得た意見を共有するよう依頼。

＜背　景＞

2024年1月にSACにより提出された「デジタルマーケティング」に関する新しいTS/Pの提案は、４月末までTMB事前コンサルテーションにかけられところ、重複等に関してコメントが寄せられた。

TMB事務局が最も重複するとしたTC 225,TC 321,TC 324のうち、TC321からは、現在開発中の規格と提案内容の関連が示された。

＜審議内容＞　議題 6.3.2＜本議題は、事前会合において議論された＞

- オンラインマーケティングとデジタルマーケティングは似ているのではないか。
  → デジタルマッチングなので違う。
- 投票が開始されたら、市場は混乱すると思う。（→ TC 321との関係を説明・提供すべき）
- ほかの委員会からの意見を付与した上で、MB投票に進め、判断をするべき。
- 今後、TSPやNP提案における利益相反をどう捉えるか検討する必要があるかもしれない。

【 決議 68/2024 】オンライン規格開発 （OSD）採用

Online Standards Development (OSD) adoption

＜決議要約＞

- 2025 年 1 月以降，該当する ISO 規格類 （新規及び改訂）の開発において OSD プラットフォームをデフォルトとすることを承認。
- 対応が困難であり、現状の手段を希望する TC/SCは，TPM に連絡して議論し，技術的な妥当性を示すよう要請し，OSD への移行がデフォルトの選択肢であることを確認。
- NSB 及び ISO/CS レベルでの研修の提供を含む広範な普及キャンペーンの必要性に同意。

＜事務局説明＞

- 編集的なルールを気にせずに規格開発に集中できる仕組み。
- 図表番号も含め、自動的に変更でき、引用文献なども自動的に修正される。
- ISO/IEC Directives Part 2を理解した上で利用することが効果的。
- SMART Authoringにつなげることができ、タグ付けができる。

＜審議内容＞ ＜本議題は、SMB/TMB合同会合において議論された＞

- TMB/SMBがOSDを進めるのに対応できるか。デフォルトにすることの議論が必要。
- TMB/SMBとしても、TC/SCがもっとOSDを使用するよう普及活動を実施すべき。（まだ５％しかやっていないのは少なすぎて驚き）

【 決議 69/2024 】（問題のある）委員会に TMB への報告を求める

Call for committees to report back to TMB

＜決議要約＞

- 特定の委員会が最初の NP 又は SBP（Strategic Business Plan）の承認に遅れが生じる可能性があることを認識し，
- 最初の NP 又は SBP の承認に遅れが生じている委員会に，TMB 事務局が準備した報告様式を使用して、2025 年 3 月の TMB 会議までに報告するよう依頼。

＜背　景＞

新規に設置された委員会の最初のNPまたはSBPの承認が遅れている委員会をどうするかについて、2023年６月にTMBがワークショップを開催し議論。ワークショップで提示されたデータによると、新規に設置された委員会では、NPから規格発行まで平均約56ヶ月。

TMB事務局は新規に設置された委員会の規格開発期間を改善するための実施計画を提案。

特にTMB事務局から提供される報告様式を用いて、（遅れている委員会に対して）2025年3月のTMB会合までに報告することを依頼。

＜審議内容＞　議題 7.3

- 誰が提案、いつまでに、のような情報も、新TC承認決議のテンプレートにいれるべき。
- 報告することを早められないか。　→　テンプレートの開発、TMB事務局でとりまとめる時間を考えると、年内に報告をもらい、とりまとめるため、2月になる。

【 決議 70/2024 】 VF 10/2024 - ISO/IEC Guide 2:2004 - 標準化及び関連活動 - 一般用語 の改訂 - Revision of ISO/IEC Guide 2:2004 - Standardization and related activities — General vocabulary

＜決議要約＞

- 規格類等に影響を与える可能性のある進行中のプロジェクト （規格類の最適化，ロンドン宣言活動，ISO/IEC (Directives) 整合プロジェクト） も踏まえ、2025 年 6 月の TMB 会議でGuide 2 の将来の改訂を新たに検討するよう要請する。

＜背景＞

Guide 2:2004は、内容的に古くなっており、改訂の必要性が指摘され、内容を踏まえ Guide 2:2004 の改訂をJDMTに移管する検討をした。

＜事務局説明＞

内容・負荷等を議長、JDMT、事務局で検討した結果、JDMTは、本改訂をするのに適切なグループではないという結果になった。一方、改訂が終わったあとに、Directivesへの導入の検討の必要性を認識。

WGを設置し改訂することを検討したが、プロジェクトがありすぎるので、将来でもよいのではないかと結論。

＜審議内容＞ 議題 8.1

- 改訂は少し後とのことだが、どのようなタイミングを考えているのか。→ 2025年６月に時期を見直す。
- WTOで利用しているというのがわかった。これも踏まえるべき。

【 決議 71/2024 】AI – ガイドライン原案と TMB/SMB 合同グループの設置
Artificial Intelligence – Draft guidelines and establishment of the Joint TMB/SMB Group

＜決議要約＞

- TC/SC等の活動に影響を与えるAIのガバナンスを調整する SMB/TMB 共同タスクフォース（JTF）の設置を決定し、SMB/TMBから最大 4 人ずつのメンバーを募集。
- AI ガイダンス文書の原案を TMB に回付し，2 週間にわたってコメントを求めるよう要請する。

＜事務局説明＞

- AIに一番に期待することは翻訳であろう。AIガイダンスは、1 年に一度は見直す必要あり。
- ISOでも使えるAI 利用ガイダンス案を作成。

＜審議内容＞　＜本議題は、SMB/TMB合同会合において議論された＞

- どのようにAIをTC/SC等に普及して利用してもらうか。
- AIの利用は大きな機会の獲得（サービス等）。そのため、正しい使い方をしたAIは必要。
- AIを使うことによるリスクは両事務局として考えないといけない。
- AI ガイダンス文書自体のガバナンスも考えなければいけない。

【 決議 72/2024 】 ISO/IEC SMART – 技術政策に関する TMB/SMB の貢献
ISO/IEC SMART – TMB/SMB contribution on technical policy

＜決議要約＞

- TMB と SMB が ISO/IEC SMART プログラムに効果的に共同で貢献を行う必要があることに同意。
- ISO/IEC SMART プログラムに，TMB/SMBが合同で技術政策に関連したインプットができるような効果的なメカニズムを設立するよう促進。
- 事務局に ISO/IEC SMARTプログラムと調整し，11 月のTMB/SMB 合同会議での報告を依頼。

＜審議内容＞　＜本議題は、SMB/TMB合同会合において議論された＞

- SMART規格で開発された規格の内容は専門家の承認（Experts validation）が必要。その方法に関して、SMBとTMBの合意が必要。
- エンドユーザーを巻き込む程度に、ユーザーの期待に答えられるのか。
- OSDと接続することは考えているのか。
- 機械がどうやってこの規格を理解できるのか、わからない。
  → 機械可読はもちろんだが、全て後ろに人間がいるため、間に機械を挟んでいるというもの。
- もし、TC/SC等がSMART規格を利用したいのであれば、どのように使わせるべきか。
  →まずはTCにはOSDを使ってもらうよう進めてほしい。
- 早急なアプローチが必要。なぜ、validation（検証）が必要なのか。
  → 内容の確かさと付加価値を与えるために専門家にOKをもらう必要がある。

ワンポイントメモ：組織名

一般的に以下のように分類。

- TF(Task Force): TMB自らがメンバー。短期間で活動。
- CC(Coordination Committee) : TC/SC議長がメンバー。
  TC/SC間のコーディネーションが業務。一定期間活動。
- SAG(Strategic Advisory Group): TMBメンバー、MB、
  専門家などが役割に応じて参加。限定された期間活動。

どのグループもTMBに報告する。

報告・討議事項
（決議なし）

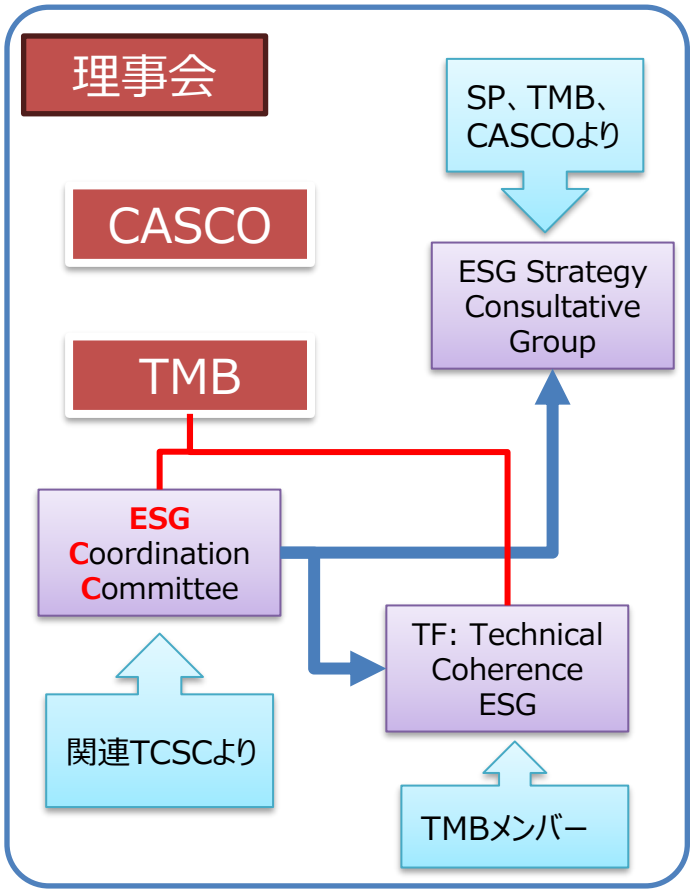
議題 5.1.2　ESG Technical Coherence- Update

- 2024年3月のTMB会合を受けて、ESG TF(TMB TF Technical Coherence for ESG)の設置が承認された。今回TMB会合にて最新動向の共有。
- ESG作業をどのように組織化するのが最善かについて、TFのコンビーナとメンバーが対応中、必要に応じて追加メンバーを歓迎。

- ESGは、世界の各地で議論あり。TMBのみでの対応は困難であり、理事会との協力が必要であり、TFが設置された。
- ESG Strategy TFの議論の中で、TMBよりも関連している人（NSBの職員、専門家でない）を出したい。

→ TMBときちんとコラボできるのであれば、歓迎。

- TC/SC等にはサポートが必要であり、TC/SC等がきちんとわかるように、ESG CCと一緒に意見をまとめていきたいと思う。
- IWA48 - Framework for Implementing Environmental, Social and Governance (ESG) Principlesの事前説明会は6月に開催。7月以降WSを予定。



議題 5.1.3 TMB ロンドン宣言行動計画 （LDAP） - Update

- 気候変動アドバイザーからの勧告の共有する方法は検討し、もう少し広い分野に適応する。更に、気候変動に対応できるような規格開発を続ける。
- 国内からの意見があれば事務局に共有。

＜事務局・TFリーダーからの説明＞

- フェーズ１のアップデートとフェーズ２の説明。
- 気候変動アドバイザーからの学びや勧告は、全TCに普及を予定。勧告自体のアップデートはしない。

＜討議内容＞

- アドバイスが一般的なもの過ぎていたものもある。
- 脆弱な者の参加はあるのか？COPOLCOから参加があるのか？　→　脆弱な者に関しては、ISO/CSと調整しており、どうやって関与させるかはいろいろな方法がある。現状は、関係者の一部であるCOPOLCO事務局と調整中。もっと大きな脆弱な関係者を関与させるようにしている。
- TC/SCリーダーシップから専門家へ本件やアドバイスが伝わっていなかった。　→　TCリーダーシップと議論して、TC/SCから伝えているが、もしそれがうまくいっていないのであれば、TC/SCに伝えてリーダーシップに専門家を巻き込んでもらう。広報（Communication）も実施する予定。
- 選定された規格が気候変動への影響が大きくないと言われた。→　専門家が思っていないところに気がつくことがあったかもしれないし、全てがうまくいくわけではないので、まずは対応してみるということ。

議題 7.1　リスクレジスター（ISOにおけるリスクとその対応）の見直し

- それぞれの勧告は承認するが、Mitigation Action(MA)とリスクの関係が一対一対応していないので、マッピングをした上での対応が必要。（重複作業や取り残しをしないため）
- リスクレジスターになぜこのリスクやMAが入っていることを注記しておくべき。

＜討議内容＞

〇Risk 1（市場ニーズにあっていない）勧告自体をアップデートすることはしない。

- Mitigation actionが失敗しているという点とOSDの関係は？　→　最適なツールが提供できていないということで、その対応（OSDのTimelinessな提供)を行うこと。
- 市場のニーズにあっているか、というよりもっと拡大した解釈なのではないか。→　市場に規格が出るまでの時間が適切か、という視点での議論。

〇Risk 4（専門性のリソース不足）　：　元はDEVCOのリスクとして記載されたが、TMBへ変更。

- 後継者プランは重要。Transformational pathがあると思うが、戦略がTC/SC等に伝わっているのか。関与させて開発したのか。
- 専門家の不足だけの問題ではない　→　どうやって活動を広報・伝達するか、が必要。
- いくつかのMitigation actionsは、１つのリスクではなく複数のリスクに貢献可能。それをマッピングしてくれるとわかりやすくなるのではないか。　→　（事務局）検討してみる。
- 研修を提供するのが、CSだけでなく、NSBから行うようなことも考えていいのではないか。

議題 7.2 TMB ダッシュボード検討(ワークショップ)

- TMBダッシュボード（TMBの活動を記録し、モニターするための資料）に記載されている規格開発時間の2030年ターゲットが24ヶ月となっており、到達まで遠いが、到達できるのか、また適切なものかを議論。
- 平均時間ではなく適切な時間に注力すべき（適切な時間vs平均時間の分析など）
- 規格開発時間を見るために、文書を分類すべき。
- 国際幹事かTCに、Communicationを通じて関与させる。
  → これらを踏まえた上で、理事会で、Measurement frameworkを見直す。

＜討議内容＞

- 製造関係者は、試験方法など数字に関して詳細に議論をしなければならない。コンセンサスを得るための議論には時間が必要。36ヶ月でも開発可能かは微妙なので、24ヶ月にするという短縮のためのコンセプトは理解できるものの、ケースバイケース。
- 人間の健康・安全は、時間をかけなければいけない。
- 平均時間は、この議論で使えるものではないかもしれない。どれだけの規格が予定より早く開発できたか、もしくは24ヶ月より短くできたかではないか。
- 開発時間と、販売との関係を統計的に調べるべき（大量に売り上げたもの、たくさん引用・参考されたものが、どれだけ時間をかけて開発したか。）→ 事務局がどれだけできるかは不明だが検討してみる。
- プロセスを凝縮させる（Squeeze the process）のは適切なのか？2030に24ヶ月にするという行動が正しいのか、を考えてもいいと思う。

その他　ISO/UNDP Cooperation Agreement

- PC 343にて、規格開発に参加しているUNDPとのAgreementを締結。
- TMBとしては戦略的パートナーシップのAgreementを歓迎しつつ、将来のリスクを最小限にするために、理事会の理解を支援し促進するようなコメント及び修正案を提出。なお、MoU自体への修正案が受け入れられるものではないと思うが、リスクの理解のために記載。

＜討議内容＞本議題は、事前会合において議論された

- UNDPに拒否権(VETO)を与える。　→　拒否権という仕組みは、ISOにない。
- 異議申し立ての可能性をPメンバー以外にも与える。
- PCで議論し、その内容にUNDPが反対したら、PCに戻してUNDPに対してNoをいうのであれば、問題ない。
- UNDPとの協定はよいと思うが、なぜ行うのかという目的が抜けている。Agreementの序文にISOの目的と、UNDPの目的を明確にする方がよい。
- Agreementの一語一語、きちんと審査してほしい。
- UNDPはISOを尊重しているが、Directivesを尊重しているように見えない。
- Consensusが重要なポイントであるため、修正を提案したい。理事会が採用するかどうかは理事会が決めるべき。
  → UNとのAgreementは先方の法務部との調整で決められているものなので、文章を変更することはほぼ認められない。
- Directivesが原則であることを理解し、進めるべき。→そのラインで修正される予定。

11.1 次回以降TMB会合の日程、場所、議題

- 次回以降の会議等について

次回　第91回TMB会合@カルタヘナ（コロンビア）

2024年9月９、10日

ISO総会、関連会合

９月9日～13日

次々回　第92回TMB会合@バイーア州（ブラジル）

2025年3月を予定

TMBジュネーブ会合中の関連会合

TMBジュネーブ会合中の事前会合

TMB会合中だけでは議論しきれない議題については、事前会合やワークショップを行い意見交換を行い、ほかのTMB議題と同様に、会合中に決議ができるよう準備した。

- Online Standard Development (OSD) – TMB決議68
- JTC 1/SC 44 新SCの設置 – TMB決議65
- UNDPとのAgreement – AOB
- 米からの情報共有 – TMB決議71
- WS： リスクレジスターの見直し – 討議事項
- WS： TMB ダッシュボード検討 – 討議事項
- TMB事前会合
  - 議題9.1 HAS コンサルタント
  - 議題6.3.1 クリエイティブデジタルデザイン
  - 議題6.3.2 デジタル マーケティング… etc.

TMB通信投票の決議

2024年第89回TMB会議以降～2024年第90回TMB会議まで

- TMB決議 36/2024 ～ TMB決議 49/2024

- 36/2024:ISO/IEC 専門業務用指針 第1部 統合版ISO補足指針の変更に関する 2023年 ISO DMT推奨事項の採択
- 37/2024:ISO/IEC 専門業務用指針 第1部 の変更に関する 2023 年 JDMT 推奨事項の採択
- 38/2024:ISO/TC 8 の下のスマートシッピングに関する新しい分科委員会（SC 26）の設置
- 39/2024:国際市場性ポリシーの例外要請 – NP 6182-19 –「配管用耐震装置の要求事項及び試験方法」の承認
- 40/2024:廃止投票への異議 （2023年第4四半期）
- 41/2024:TC 議長の任命（2024年2月）
- 42/2024:ISO 27269，保健医療情報 - 国際的な患者の要約 のためのメンテナンス機関（MA）の承認
- 43/2024:ISO/TC 60/SC 1 用語及びウォームギヤ の再割り当て
- 44/2024:虐待を受けた子どもに対する 子どもに優しい学際的かつ各機関協力の対応モデルであるバルナフスのためのガイドラインに関する IWA
- 45/2024:ISO/TC 71 の下の鋼コンクリート複合構造及びハイブリッド構造に関する新しい分科委員会（SC 9）の設置
- 46/2024:ISO/TC 17 鋼 の業務範囲の変更
- 47/2024:ISO/TC 114/SC 6 – 貴金属被覆 の再開
- 48/2024:TC 議長の任命（2024年1月）-追加
- 49/2024:TC 議長の任命（2024年3月）

TMB決議 50/2024 ～ TMB決議 55/2024

- 50/2024:ISO/TC 43/SC 3 水中の音響 の再割り当て
- 51/2024:ISO/TC 81 農薬の名称 の再割り当て
- 52/2024:ISO/TC 48 の下の ガラス，プラスチック及びセラミック製の非測定機器に関する新しい分科委員会（SC 7）の設置及び幹事国の割り当て
- 53/2024:ISO/TC 48 の下の体積測定機器に関する新しい分科委員会（SC 8）の設置及び幹事国の割り当て
- 54/2024:ISO/TC 48 の下の実験室用家具に関する新しい分科委員会（SC 9）の設置及び幹事国の割り当て
- 55/2024:TC 議長の任命 （2024年4月）

参考
（ご紹介）

SPCG（Standardization Programme Coordination Group）**について**

- 2024年6月に会議をオンラインで開催。
- 2024年11月にSPCG対面会合をパリで開催予定。

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC（SG）設置の回避や、３機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。（日本からは、当初よりTMB委員が参加）

①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応
②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応
③SPCGの責任外の問題（著作権、有償無償問題など）は適宜関連部署へ
④SPCGは決定機関（Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG）に報告
⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付（著作権等の遵守は必須）
⑥３組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成（Landscape文書）

https://www.worldstandardscooperation.org/
https://www.worldstandardscooperation.org/what-we-do/spcg/

どのように広報中？

右のイメージに到達したら、下にスクロール！

SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:
– Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
– Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
– Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMB, TSAG);

Official documents and operational information

SPCG Membership — Download

SPCG terms of reference — Download

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields) — Download

SPCG Key performance indicators — Download

SPCG Effective Coordination Paper — Download

SPCG AI/ML landscape — Download

ランドスケープ文書！

Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields

Status: 6 December 2021

Field	ISO TCs[1]	IEC TCs[2]	JTC 1/SCs[3]	ITU-T SGs[4], FGs	Dedicated and other related Coordination
	• TMB	• SMB	• SMB & TMB	• TSAG	• IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAG Standardization Programme Coordination Group (SPCG) • World Standards Cooperation (WSC) • Global Standards Collaboration (GSC)
Access Networks, Transport Networks, Optical Networks	• ISO/TC 204 Intelligent transport systems	• IEC/TC 86 • IEC/TC 100 • IEC/SyC Communication Technologies & Architectures	• JTC 1/SC 6	• **ITU-T SG15** • ITU-T SG9	• ITU/WMO/UNESCO IOC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning
Accessibility, Human Factors, User Interfaces	• ISO/TC 37 • ISO/TC 159 • ISO/TC 173 • ISO/TC 314		• JTC 1/SC 35	• ITU-T SG2 • ITU-T SG9 • **ITU-T SG16** • ITU-T SG20	• Joint Coordination Activity on Accessibility and Human factors (JCA-AHF)
Active Assisted Living	• ISO/TC 314	• IEC/SyC Active Assisted Living • IEC/TC 64 • IEC/TC 61		• **ITU-T SG16**	
Agriculture, smart farming	• ISO/TMBG/SAG on Smart Farming • ISO/TC 23	• IEC/SMB SEG on Biodigital Convergence	• JTC 1/SC 41 • JTC 1/SC 42	• ITU-T SG5 • ITU-T SG13 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	

表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
- ISO次世代賞
- ISO優秀賞
- 産業標準化事業表彰

2023年 JTC1/SC 42 AI（人工知能）が受賞。

2023年 Tanzaniaの若手職員が受賞。

参考 https://www.iso.org/iso-awards.html

IECには、ケルビン賞、エジソン賞、1906賞がある。

- ローレンス D アイカー賞：優秀なTCやSCの活動に対して、年に１つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰。

- ISO次世代賞：18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、６ヶ月のISO中央事務局への出向の機会。（４月末まで募集中）

- ISO優秀賞：前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。

- 産業標準化事業表彰：国際規格やJIS等の作成、普及・啓発等や標準化を活用した市場創出や社会課題解決等の功績を有する個人・組織を表彰。
https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/R06hyosho.html

ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

＜事務局長からの連絡＞

- ロシア**主導**で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

＜ロシア主導が以下の場合＞

- CM（委員会マネジャー）
  - 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
  - ロシアの主導ではないWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。
- 議長
  1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
  2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可能。
  3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。
- コンビーナ
  1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
  2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
     - 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応　　または、
     - WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
  3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

笑顔のメンバー　ジュネーブでの集合写真

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html

日本産業標準調査会ホームページ

https://www.jisc.go.jp/